

(別添)

社会医療法人 共愛会
戸畑共立病院
公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定
平成30年 3月 改定

【戸畑共立病院の基本情報】

医療機関名：社会医療法人共愛会 戸畑共立病院

開設主体：社会医療法人

所在地：福岡県北九州市戸畑区沢見2丁目5-1

許可病床数：218床

（病床の種別）

一般病床 218床

（病床機能別）

高度急性期病床 16床

急性期病床 202床

稼働病床数：218床

（病床の種別）

一般病床 218床

（病床機能別）

高度急性期病床 16床

急性期病床 202床

診療科目：内科 呼吸器内科 循環器内科 内分泌・代謝内科 腎内科 消化器内科
肝臓内科 皮膚科 精神科
外科 乳腺外科 消化器外科 肝臓・胆道・膵臓外科 呼吸器外科 形成外科
整形外科 脊椎脊髄外科 手外科
脳神経外科 泌尿器科 眼科 歯科 歯科口腔外科
画像診断センター がん治療センター
麻酔科 救急科 病理診断科

指定等

地域医療支援病院

救急告示病院

福岡県指定がん診療拠点病院

へき地医療拠点病院

災害拠点病院

管理型臨床研修病院

日本医療機能評価機構認定施設

職員数：平成29年4月現在

- ・医師（歯科医師含） 62名
- ・看護師 296名
- ・准看護師 28名
- ・薬剤師 18名
- ・診療放射線技師 30名
- ・理学療法士 19名
- ・作業療法士 5名
- ・言語聴覚士 4名

・ 臨床検査技師	18名
・ 臨床工学技士	21名
・ 管理栄養士	8名
・ 視能訓練士	3名
・ 歯科衛生士	7名
・ 内視鏡技師	1名
・ 救命救急士	4名
・ ソーシャルワーカー	6名
・ 心理療法士	3名
・ 事務職員	35名
・ ドクターズクラーク	18名
・ ケアワーカー	25名
・ 助手	12名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

北九州区域は、総人口の減少が続きますが65歳以上の高齢者人口は平成32（2020）年にピークを迎え、その後は徐々に減少、75歳以上の後期高齢者人口は、平成42（2030）年までは増加が見られますがその後減少すると予想されています。

北九州区域の人口推移

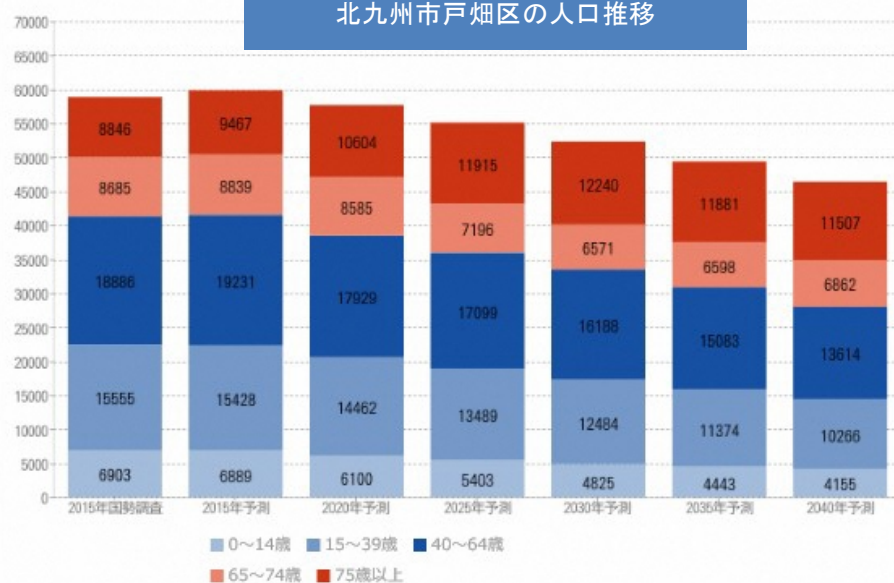


出典: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月中位推計)」

日本医師会の地域医療情報システムを参照すると当院の所在地でもある戸畑区も同様に総人口は、減少してきます。高齢者人口も同様に平成32（2020）年にピークを迎え、その後徐々に減少すると予想されています。

※ 将来推計人口（人）

北九州市戸畑区の人口推移

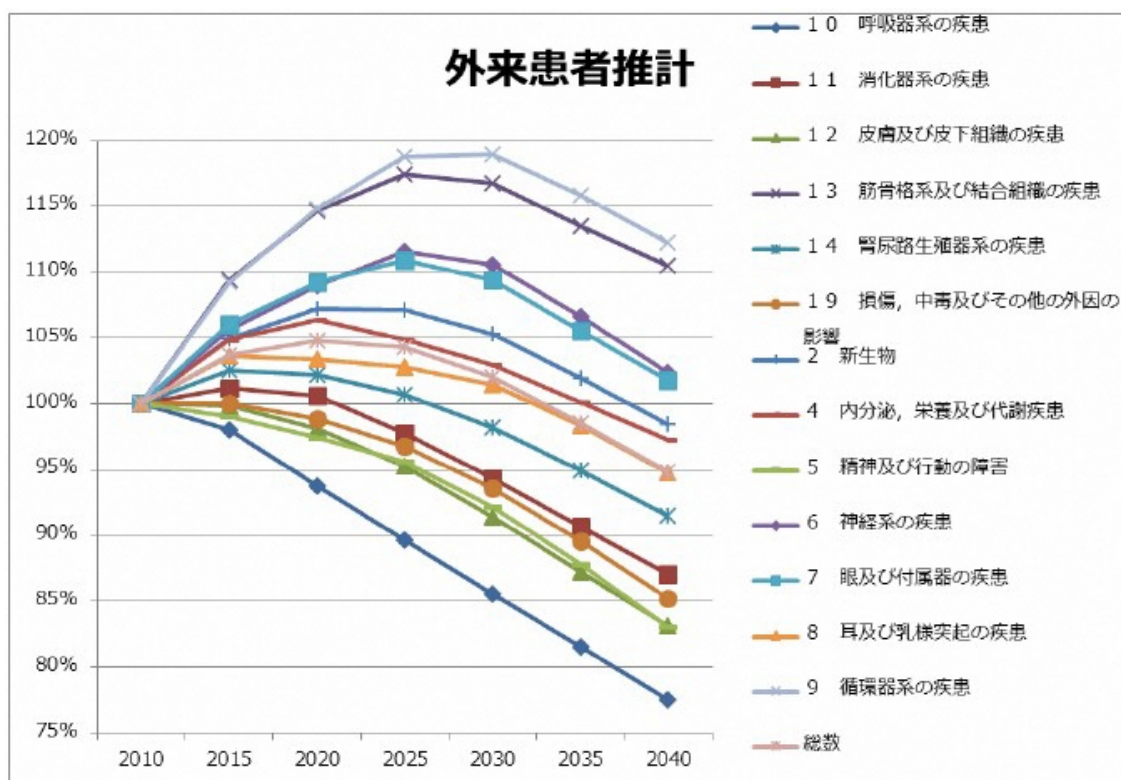


北九州区域の平成27年度の病床機能報告における機能別の病床数と平成37年における医療需要と必要病床数の推計は、以下のとおりで

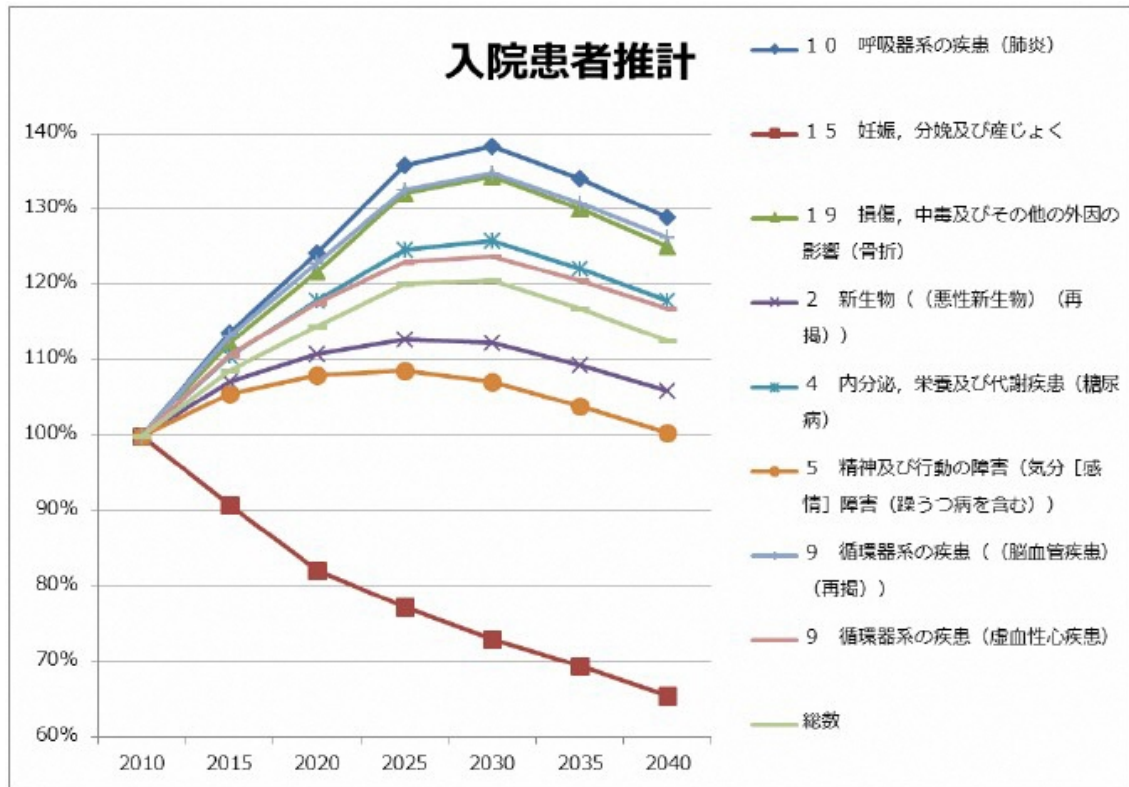
病床区分	平成27年度 病床機能報告	医療需要 (人/日)	必要病床数 (床)
高度急性期	1,669	1,413	1,883
急性期	7,357	4,132	5,296
回復期	2,414	4,343	4,825
慢性期	5,569	3,738	4,062
合計	17,009	13,626	16,066

回復期では現状の病床数が必要病床数を2,411床下回っています。また、高度急性期も214床下回っていますが、高度急性期と急性期の合計値で比較した場合は1,847床上回っています。

傷病別患者数の推計は、以下のとおりで外来は、平成（2010）年と比較した場合、平成37（2025）年にかけて、総数で4%程度増加すると推計されています。傷病別では、特に循環器疾患、筋骨格系の疾患の患者が17%～19%増加すると見込まれています。



入院では、平成37年（2025）年にかけて、総数で20%程度増加すると推計されています。傷病別では、特に肺炎、脳血管疾患、骨折の患者が32%～36%程度増加すると見込まれています。



また、高齢者人口が増加する中で認知症高齢者が増えていくと見込まれており、北九州区域の認知症高齢者は、平成22（2010）では約43千人、平成37（2025）年では約69千人になると推計されています。

② 構想区域の課題

○回復期病床が不足する見込みとなっていることから地理的な配置も考慮しながら他病床からの転換により、確保を図っていくことが必要です。

○既存の医療資源の機能を充分发挥するために医療機関間の連携や医科・歯科の連携を進めていくとともに将来の医療提供体制を支える医療従事者の確保に取り組んでいくことが必要です。

○在宅医療等の対応する患者として必要病床数が推計されていることから、在宅医療、介護施設等での受け入れ能力の向上が求められています。また、今後増加が見込まれる認知症高齢者についても、適切に対応していくことが必要です。

※「福岡県地域医療構想」より抜粋

③ 自施設の現状

(理念)

- ・われわれの使命は地域医療とその向上に貢献することです。

(方針)

- ・まごころの医療
(患者さんの意思を尊重し、患者さんや家族から信頼される病院を目指します。)
- ・地域医療支援病院としてより信頼と連携のとれる病院
(急性期医療・高度医療機器の共同利用・専門的医療を通じ地域の医療機関や介護福祉施設との密な連携を行います。)
- ・チーム・ワークのいい病院
(働きやすくコミュニケーションの取れた職場を目指し、職員一丸となって最善の医療を行います。)
- ・教育と研究・研修の病院
(誇りと向上心をもって最新の医療を行えるよう自己研鑽を目指します。)
- ・経営の安定した病院
(よい医療を継続するために、安心して医療に励める病院を目指します。)

(診療実績)

項目	H26年	H27年度	H28年度
病床数	218	218	218
入院患者数 (人/日)	203.9	201.4	192.4
平均在院日数	13.2	12.6	12.1
病床利用率 (%)	93.5	92.4	88.0
入院1日単価 (円)	66,003	66,196	65,752
外来患者数 (人/日)	314.6	317.5	320.6
外来1日単価 (円)	19,292	20,211	20,523

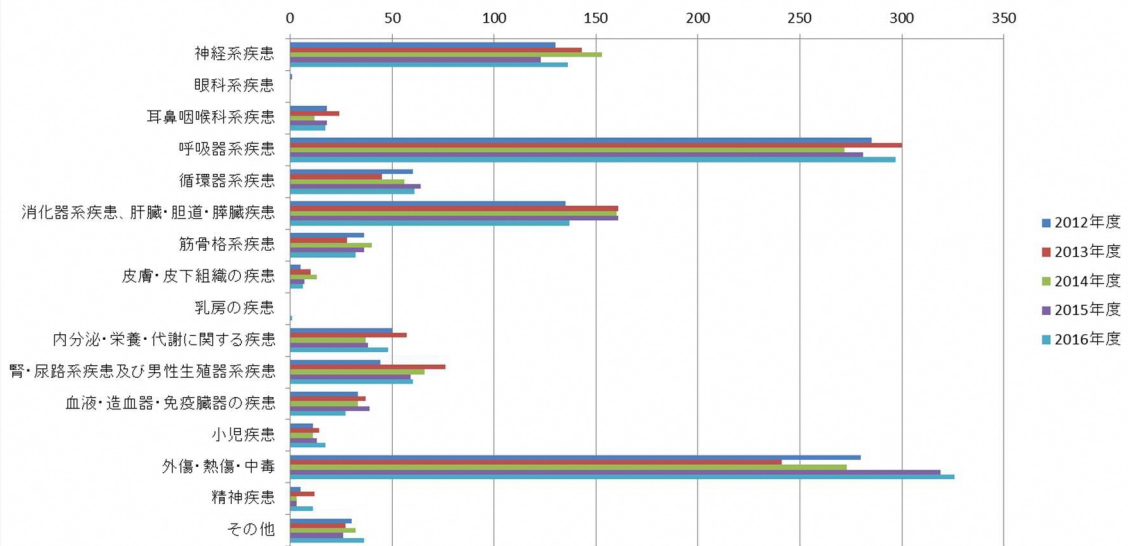
(職員数の推移)

職種	H27/4現在	H28/4現在	H29/4現在
医師	60	62	62
看護師 (准看含)	301	336	324
専門職等	192	188	184
事務職	53	54	53

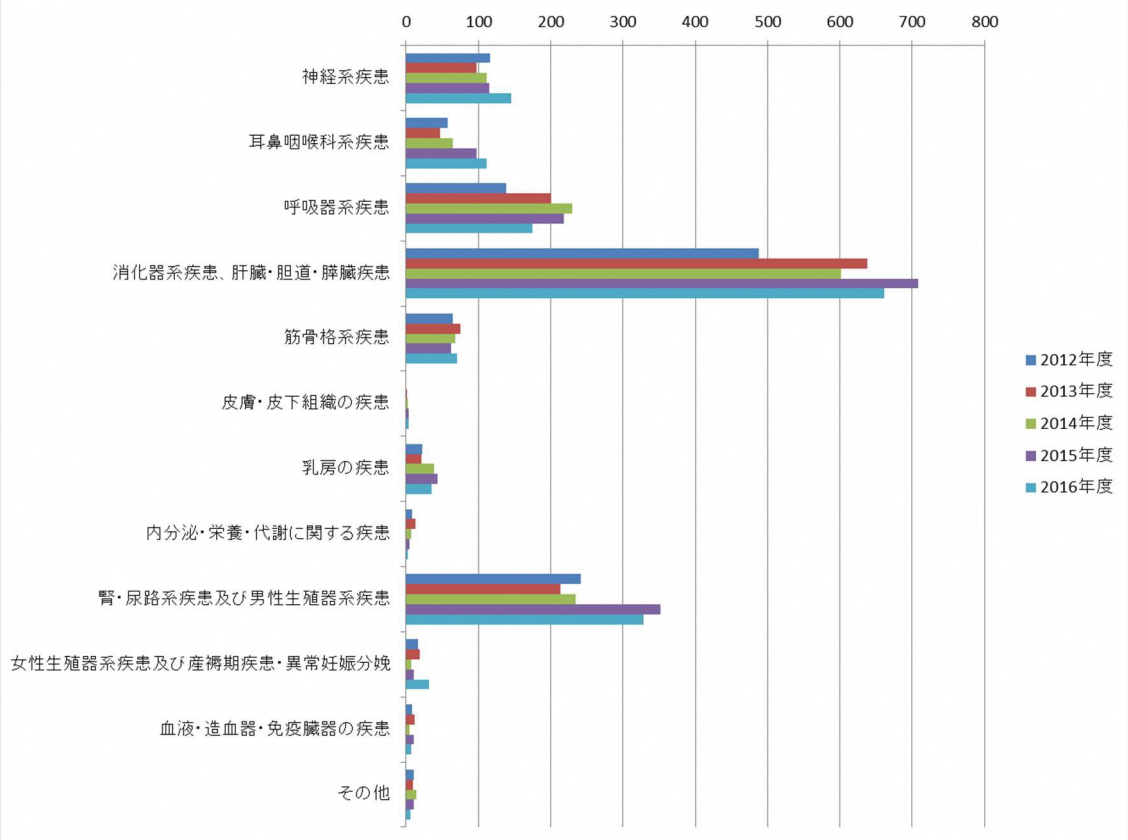
(特徴と役割)

当院は、北九州市の戸畑区、若松区において中核的な医療を担っています。特に救急医療、がん治療に力を注いでいます。そこでDPCデータを用いた「MDC02別の救急車搬入からの入院患者数の推移」と「MDC02別のがん入院患者数の推移」を以下に示します。

MDC02別の救急車搬入からの入院患者数の推移



MDC02別のがん入院患者数の推移



他機関との連携においては、地域医療支援病院として、地域のかかりつけ医との紹介・逆紹介をはじめ、周りの医療機関との連携を積極的に行っています。加えて、以下の高額医療機器を揃え、共同利用ができる体制を整えています。

〔放射線診断装置〕

- ・ 320列CT
- ・ 64列CT
- ・ 3.0T MRI
- ・ 1.5T MRI
- ・ PET-CT
- ・ 核医学診断装置
- ・ 血管造影撮影装置
- ・ マンモグラフィー

〔放射線治療装置〕

- ・ リニアック
- ・ トモセラピー
- ・ サイバーナイフⅡ
- ・ 密封小線源治療装置

〔その他〕

- ・ 温熱治療装置
- ・ 高気圧酸素療法装置

救急医療に関しては、断らない救急を実践しており、実績は以下のとおりです。

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
救急車受入れ件数	2,540件	2,638件	2,677件	2,720件	2,767件
応需率	97.1%	96.0%	96.9%	96.4%	97.1%
入院率	44.0%	47.0%	44.5%	42.8%	43.3%

加えて、メディカルコントロール協議会に参画して、医師による救急隊員への指示を行っています。また、消防局の救急車が当院から出動する派遣型ワークステーションに協力しており、救急隊員の実習の受入れも行っています。

がん治療においては、外科的な手術療法をはじめ、放射線治療および化学療法、温熱・高気圧酸素療法を組み合わせた集学的な治療を行っています。平成27年度の実績は、以下のとおりです。

	放射線治療	化学療法	温熱療法	高気圧療法
延べ治療件数（件）	14,992	3,317	2,590	4,677

内容	件数
胸腔鏡手術件数	16件
腹腔鏡手術件数	227件

その他の特徴として整形疾患、消化器疾患の症例が多いのが特徴です。
 整形外科においては、外傷・骨折、脊椎脊髄外科、手外科、膝関節、肩関節等の手術を実施しており、症例は、年々増加し、平成27年度は、1,000例を超えるまでになりました。

内容	件数
上肢骨折	270件
下肢骨折	260件
脊椎	87件
手外科	135件
人工関節	51件
骨切り術	5件
関節鏡視下手術	77件
その他	168件
合計	1053件

消化器疾患は、多種多様な内視鏡治療を行っています。平成27年度の実績は、以下のとおりです。

手技	件数
内視鏡的胃・食道静脈瘤治療（EVL・EIS）	12件
食道狭窄拡張術	63件
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	156件
内視鏡的止血術	144件
内視鏡的粘膜切除術（EMR・ポリープ・クットミー）	631件
胆管・膵管系内視鏡（ERCP, EST, ERBD）	159件
胃ろう増設術	21件
上部内視鏡検査	3,202件
下部内視鏡検査	1,876件
小腸内視鏡検査	70件
カプセル内視鏡検査	16件
その他	69件

また、へき地医療拠点病院、災害拠点病院の認定を受けており、離島に代診医の派遣を行うとともに災害に関しては備蓄を備え、訓練や研修へ参加し、万が一に備えています。

④ 自施設の課題

○安心・安全な地域医療の提供

地域の方々やかかりつけ医の医師を含む医療介護従事者から、信頼される医療機関になるための医療環境を確保し、質の向上を図ります。

- ・機能分化と地域包括ケアシステムへの対応
- ・公益性の高い医療（救急、へき地、災害）の維持継続
- ・高額医療機器の共同利用
- ・チーム医療（多職種協働）の推進
- ・認知症患者への対応
- ・在宅及び介護サービスとの連携強化

○経営の安定化

H28年度の診療報酬改定は、急性期病床に対する要件を厳格化するなど、非常に厳しい内容であり、経営にも大きな打撃を受けました。今後も厳しい医療情勢が続く中、安定した経営が必要です。当院は、民間医療機関であり、経常損益をマイナスになることは許されません。そこで以下を目標に運営に当たっています。

項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	H29目標
医業収益	7,181	7,156	7,230	6,890	7,144
医業費用	6,670	6,649	6,895	7,129	7,040
経常損益	369	408	244	▲335	6

○人材の確保と育成

- ・医療従事者（医師、看護師、専門職等）の確保
- ・自院スタッフの人材育成
- ・地域医療従事者および地域住民への研修

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

救急医療とがん治療を中心に急性期医療の提供体制を維持していきます。医療の機能分化が更に進み、地域連携が重要になります。そこで当院は、かかりつけ医からの紹介患者に対して、急性期医療を提供し、状態が落ち着けばそのかかりつけ医に逆紹介します。加えて、ICTを利用し、診療情報の共有化を進めていきます。

特に救急医療は、継続して「24時間断らない救急」を実践していきます。骨折や肺炎の急性増悪等で即時に入院が必要になっても、適切な病床管理を行い、その対応ができる体制を確保します。

今後は、高齢者の入院患者が増加するとともに認知症患者の増加も予測されています。高齢者は、主疾患のみならず併存疾患もあり、入院して治療するには、医師・看護師等を含めたチームでの医療が必要となることから、この点を推進していきます。また、質の向上を図るために優秀な医師・看護師の確保に努めます。更に、確保した人材に対する育成も行わなければなりません。研修などに参加させるとともに資格取得を推奨し、スキルアップに努めます。

② 今後持つべき病床機能

当面は、高度急性期病床（16床）と急性期病床（202床）を継続して維持していきます。2018年度に診療科の新設を予定しており、診察室を確保することから、戸畑共立病院（218床）と健診業務を担っているとばたクリニック（19床）を統合します。尚、健診センターで使用中のベッド機能は変化ありません。

その後法人の計画では、地域で不足している地域包括ケア病床の必要性を考え、戸畑リハビリテーション病院（回復期病床）に30床を移管する計画です。この計画が遂行されると戸畑共立病院（急性期病床）の病床数は、207床になる見込みです。

③ その他見直すべき点

地域包括ケアシステムが確立されてくるため、急性期医療を受けた後の患者をスムーズに次の機能を担う医療機関や介護施設（在宅を含む）へ移動しなければなりません。このことから医療機関同士の連携をこれまでに以上に強化しなければなりません。加えて、医療と介護の連携が必要となりますのでこの点について強化を行っていきます。具体的には、高齢の入院患者が多くなることから入院当初から退院支援を行う必要があり、介護従事者等との連携を密に行います。また、退院患者に対して円滑に在宅医療を行うために看護師の退院前訪問を推進していきます。

経営の安定化は、医療を提供していくために必須の事項です。民間医療機関であることから運営補助金や財政からの繰入金などは、ありません。厳しい医療情勢ではありますが経常損益の継続した黒字に努めます。そのために会議等で病院経営の問題点等を把握・検討を行い、さまざまな業務改善を行うとともに職種間におけるコミュニケーションの円滑化を図り、職員が経営に参画する体制を敷きます。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度 病床機能報告)	計画 (2018年度)		将来 (2025年度)
高度急性期	42	16	→	20
急性期	176	202		187
回復期	0			0
慢性期	0			0
(合計)	218	218+19		207

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	・増築に向けた検討	・基本プランの策定検討	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 2px solid blue; border-right: 2px solid blue; height: 150px; margin-right: 10px; text-align: center;"> 2年間程度で 集中的な検討を促進 </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #f9a825; width: 100px; height: 150px; margin-bottom: 10px; text-align: center; color: white;"> 第7期 介護保険 事業計画 </div> <div style="background-color: #90ee90; width: 100px; height: 150px; text-align: center; color: black;"> 第7次医療計画 </div> </div> </div>
2018年度	・医療動向を考慮し、詳細設計 ・法人の増改築計画を検討	・最終プランの策定 ・法人各施設の機能別病床数を確定	
2019～2020年度	・詳細設計 ・施工業者の選定・発注	・最終プランの策定	
2021～2023年度	・増築エリアの稼働	・戸畑リハビリテーション病院へ30床移管	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	来年度に小児科を追加予定	→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

項目	H28実績	H29予測	H30予測	H31予測
病床数(床)	218	218	218	237
高度急性期病床	(42)	(16)	(16)	(16)
急性期病床	(176)	(202)	(202)	(202)
入院患者数(人)	192.4	200.6	207.1	207.1
病床利用率(%)	88.0	92.0	95.0	95.0

経営に関する項目

項目	H28実績	H29予測	H30予測	H31予測
医業収益(百万円)	6,890	7,144	7,214	7,250
医業費用(百万円)	7,129	7,040	6,955	7,000
経常損益(百万円)	▲335	6	161	150

その他

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

この作成されたプランは、地域医療調整会議に提示されることが記載されていますがこのプランは、どのような影響および効力があるかをご教授頂きたい。